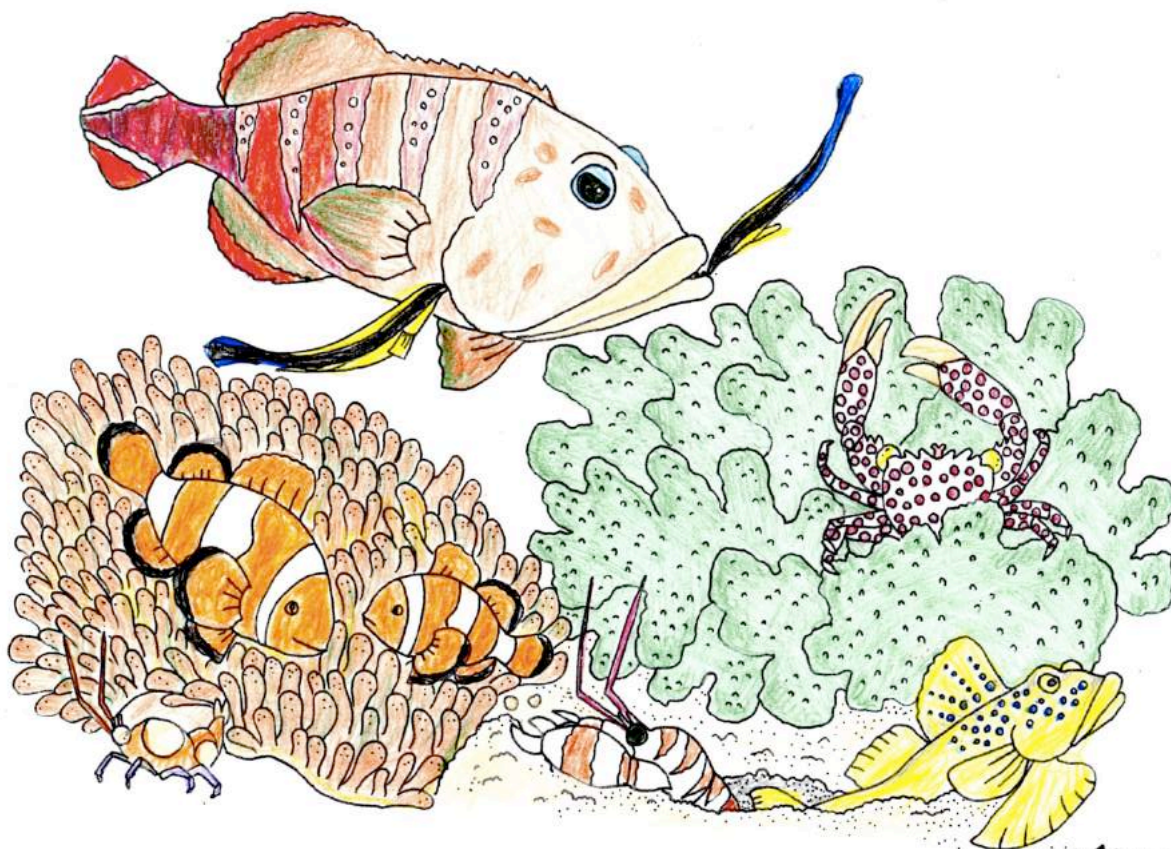




サンゴぬりえ①

【海のなかよし】の解説

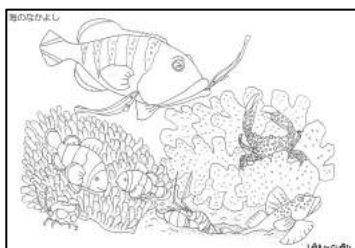


LAB to CLASS

◆テーマ

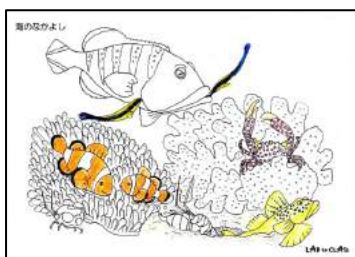
サンゴ礁生態系で見られる「共生」関係について学びます。自然界の生きものたちの間には多様なつながりがあり、豊かな生態系を形成しています。そのなかでも、異なる種類の生きものが助け合いながら生活している状態を「相利共生」といいます。捕食者の多い海のなかで、小さくて弱い生きものたちはとくに、さまざまな工夫をして生きています。共生関係にあるパートナーがいなくなると、すぐに敵に襲われて食べられてしまうことも珍しくありません。

◎解説の例



◆絵の説明：生きもの同士の助け合い

サンゴ礁の海では、いろいろな生きものが助け合いながら暮らしています。どのような生きものたちがどのような方法で助け合っているのかな。じっくりと見ていきましょう。



◆第一段階：一緒にいる理由はなんだろう

1) サンゴ礁の人気者、クマノミの仲間はイソギンチャクと仲良しです。クマノミ以外の生きものがイソギンチャクに触れると、毒針で刺されます。ところが、クマノミは体から特別な粘液を出しているのに刺されず、敵がくるとイソギンチャクのなかに隠れて身を守ります。その代わりに、クマノミはイソギンチャクを食べにくる魚を追い払っています。オレンジと白いラインのカクレマノミをぬりましょう

●カクレマノミ

2) 枝サンゴの間に隠れているのはサンゴガニの仲間です。サンゴガニはサンゴの粘液を食べさせてもらうかわりに、サンゴの天敵オニヒトデが近づくとハサミをふりかざして果敢に追い払います。赤い水玉模様のオオアカホシサンゴガニに色を付けてみましょう。

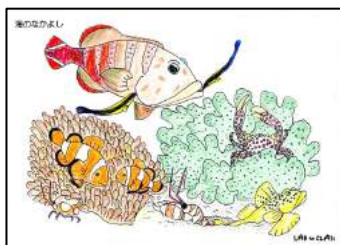
●オオアカホシサンゴガニ

3) 砂地で暮らすハゼの仲間は、テッポウエビが地面に掘った穴に潜り込んで、一緒に暮らしています。その代わりに、目が悪いテッポウエビのために穴の入り口で見張りをして、敵が来ると危険を知らせてあげます。黄色い体に青い星のような点があるギンガハゼをぬりましょう。

●ギンガハゼ

4) 大きな魚をつついてるのはホンソメワケベラです。他の魚のエラや体についた寄生虫を食べています。くねくねと変わった泳ぎ方をしながら他の魚に近づくのが『お掃除しますよ！』のサインです。お掃除の間、魚たちは口やエラを大きく広げて、じっと動かずにおとなしくしています。ホンソメワケベラをぬりましょう。

●ホンソメワケベラ



◆第二段階：パートナーは誰？

5) 次に、それぞれのパートナーをぬっていきましょう。カクレマノミは、茶色いじゅうたんのようハタゴイソギンチャク。オオアカホシサンゴガニは、もっこりとした形のハナヤサイサンゴ。ギンガハゼは、立派なハサミをもったニシキテッポウエビ。ホンソメワケベラは、大きな口のニジハタ。それぞれどのような関係なのかを思い出しながらぬってください。まわりのサンゴや海の色もぬって完成させましょう。青、紫、黄色、ピンク、茶色…カラフルなサンゴ礁に仕上げてください。



◆まとめ：パートナーがいなくなると、敵が来る？！

海のなかの生きものには、いろいろなつながりがあります。食べたり食べられたりする関係以外に、異なる種類の生きものが助け合って暮らしていることもあります（これを「共生」といいます）。このぬり絵には、このように助け合って暮らしているいくつかのペアが描かれています。自分のパートナーがいなくなると、すぐに敵に襲われて食べられてしまうこともあるのですよ。とくに、小さくて弱い生きものは“弱点をお互いにカバーして暮らす”ことが、自然のなかで生きていく知恵なのです。